

日本国際保険学校: ISJ - Insurance School (Non-Life) of Japan -

- 概要：東アジア各地域の損保業界との相互理解、交流強化を目的とした保険技術協力プログラム
- 損保協会と（公財）損害保険事業総合研究所の共催
- 東京で開催する一般・上級コースと、参加対象地域で開催する海外セミナーからなる。
- 「アジア各国・地域の損害保険事業の健全な発展への貢献」という「技術支援」の基本方針は堅持しつつ、会員会社の海外事業に資する基盤整備への支援を行っていく。

	一般コース	上級コース	海外セミナー
発 足	1972年	1991年	1993年
概 要	国連貿易開発会議(UNCTAD)の勧告、東アジア保険会議(EAIC)の要請を受け、本邦損保業界による東アジア地域に対する保険技術協力プログラムとして発足。 商品・実務に係る基本的講義を中心とするが、参加者間の相互理解強化も重視。	1987年の保険審議会答申指摘事項(ISJの充実)を契機に、中堅・管理職層を対象としたより専門的なコースとして新たに発足。 ワークショップ形式を多く取り入れ、参加者間の意見・情報交換を中心とした構成。	ISJ参加地域に講師を派遣し、現地で関心のあるテーマについてセミナーを実施。
対象地域	現在16地域 バンコク、香港、ジャカルタ、マニラ（1972年から）、クアラルンプール、シンガポール（1973年から）、ソウル（1978年から）、バンドルスリブガワン（1986年から）、マカオ（1988年から）、北京、台北（1989年から）、ハノイ（1994年から）、ネーピードー（1996年から）、プノンペン（1999年から）、ウランバートル（2007年から）、ビエンチャン（2016年から）		
参加者枠	35名	24名	1都市あたり100名程度
卒業生	1,452名（*） うち保険監督官庁からの参加者数は224名	534名（*） うち保険監督官庁からの参加者数は86名	4,923名（**）

（*）卒業生

ベトナムの保険監督官庁の保険局長、シンガポールの損保局長、カンボジアの保険協会長、タイ、インドネシア損保協会の専務理事を始め、各地域の損保業界、保険監督官庁で重要なポストに就く卒業生を多数輩出している。

卒業生の多くとは、年2回発行している「ISJOB会報」や、毎年「海外セミナー」開催地で実施している「ISJ同窓会」等を通して、現在も交流を続けている。

（**）これまでの「海外セミナー」開催地（カッコ内は参加者数）

93年：香港(80)、バンコク(90)、94年：クアラルンプール(96)、シンガポール(65)、95年：ジャカルタ(120)、マニラ(70)、96年：台北(114)、ソウル(91)、97年：北京(120)、上海(75)、98年：ハノイ(60)、ヤンゴン(90)、99年：シンガポール(127)、01年：バンコク(130)、クアラルンプール(90)、02年：北京(126)、上海(86)、03年：ソウル(97)、台北(121)、04年：ジャカルタ(221)、マニラ(107)、05年：ハノイ(118)、ホーチミン(90)、06年：プノンペン(140)、07年：バンコク(110)、クアラルンプール(91)、08年：ソウル(115)、台北(120)、09年：ハノイ(121)、ホーチミン(118)、10年：マニラ(125)、ウランバートル(76)、11年：ジャカルタ(220)、12年：ヤンゴン(95)、プノンペン(175)、13年：ハノイ(205)、ホーチミン(110)、14年：バンコク(246)、15年：マニラ(253)、16年：ヤンゴン(219)